最上川（上流）水防災河川学習プログラム
小学校５年生 社会 小単元「自然災害を防ぐ」

最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会
防災教育検討会

○最上川（上流）水防災河川学習プログラム「自然災害を防ぐ」

1.学習指導要領における第５学年の目標（学習指導要領※より抜粋）

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

（１）我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

（３）社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通じて，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

※文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成２９年６月）

2.学習指導要領における単元の内容（学習指導要領※より抜粋）

（５）我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身につけること。

（ア）自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。

（エ）地図帳や各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等に身につけること。

（ア）災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現すること。

国土の自然災害に関する内容については，アの（ア）及び（エ）とイの（ア）を関連付けて指導する。例えば，災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，地図帳や各主の資料で調べ，まとめ，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え表現することを通して，自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにすることである。

※文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成２９年６月）

3.第５学年の評価の観点の趣旨（参考）※

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べ，国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性，産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに，国土に対する愛情を持とうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し，社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり，地図や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を活用したりして，必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子，国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」より抜粋

4.評価のポイント※

〇社会的事象への関心・意欲・態度

・自然災害の防止の取組に関心をもち，意欲的に調べている。

・自然災害の防止の重要性に関心をもち，協力の大切さを考えようとしている。

〇社会的な思考・判断・表現

・自然災害の防止の取組について，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。

・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを考え，自然災害が起こりやすい我が国においては，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

〇観察・資料活用の技能

・地図や地球儀，その他の資料などを活用して必要な情報を集め，読み取っている。

・調べたことを白地図や作品などにまとめている。

〇社会的事象についての知識・理解

・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを理解している。

・自然災害の防止の取組，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」を参考に作成。

5.最上川学習プログラムにおける単元の目標

日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり，山形市や身近な最上川及びその支川を事例として取り上げ，国（山形河川国道事務所）や都道府県（山形県），市町村の取り組みについて調べることを通し，自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

6.学習のねらい

山形県戦後最大の洪水被害となった昭和４２年「羽越水害」やその後の豪雨被害をもとに，自然災害の防止には，公助だけでなく，自助や共助も重要であることを考えさせる。

7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは4時間で構成しています。

第１時	第２時	第３時	第４時
「自然災害の多い日本」	「災害を防ぐために（公助）」	「災害を防ぐための地域での取り組み（自助・共助）」	「自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助）」
・日本のどこかで，毎年のように大きな自然災害が発生していることを知る。 ・日本では自然災害が起こりやすいことを知る。	・昭和 42 年の羽越水害による山形県での被害を取り上げ，風水害への関心を高める。 ・山形県内で行われている水害を防ぐための取り組みを知る。	・地域での自助・共助による減災のための努力を知る。 ・自然災害の防止には，公助だけでなく，自助や共助も重要であることを知る。	・災害に備えて自分たちにできることを考える。

児童の学習思考の流れ

第１時	第２時	第３時	第４時
自然災害について，その状況や被害を知り，防災意識を持つ。	災害に対するこれまでの苦労や努力に気づき，その取り組みの大切さを学ぶ。	災害を防ぐための具体的な取り組みや工夫を考え，自分たちの生活にいかす。	自然災害から身を守り，安全で安心できる暮らしをするための手立てを考える

災害の認識 ➡ 防災への理解 ➡ 防災への取り組み（これまで～これから） ➡ 防災へ準備（物～意識）

8.授業（学習）を通して育てたい力

地域の特性や実態を踏まえた学習を通して、地域社会への防災意識の向上につなげる。

・最上川水系に属する地域の特性を知り，災害の恐ろしさやこれまでの苦労を理解する。

・児童，保護者の実態を把握しながら，今必要な防災教育の在り方を探る。

・災害に対する公助，自助，共助という取り組み方を理解し，自ら命を守る意識を高める。

・児童の学びを地域や保護者へ広めるための発展的な教育活動を展開する。

９.指導計画

○「自然災害を防ぐ」指導計画（全4時間）

	本時の問い	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	☆評価のポイント
つかむ	①自然災害の多い日本 1時間	○我が国で近年起こった自然災害を調べて，なぜ日本は自然災害が多いのかを発表し，まとめる。 ○自然災害の多さから，その被害の防止について関心を高め，調べることを話し合って学習問題をつくる。 単元のめあて： 人々は，自然災害をどのように防いでいるのだろうか。	◆世界と比較しながら，我が国の国土には，自然災害が起こりやすいという特色があることに気づかせ，学習問題につなげさせる。	☆〔技能〕 自然災害について資料などから読み取ってまとめている。 ☆〔思・判・表〕 自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え，表現している。
考える・話す（聞く）・理解する	②災害を防ぐための地域での取組み（公助） 1時間	○自然災害（主に洪水・地震・津波・土砂災害）の被害を防ぐための国や都道府県，市町村の対策や事業を調べ，わかったことを発表する。	◆最上川及びその支川で実施されている事例をみながら，被害を防ぐために国や都道府県，市町村が実施している取り組みを知る。	☆〔知・理〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること，自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
	③地域のみんなで災害を防ぐ（自助・共助） 1時間	○「平成25年7月豪雨時の救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校こどもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について，気づいたことや考えたことをもとに話し合う。 ○保護者の防災意識を参考に，これからみんなで考えることと自分で考えて行かなければならないことを理解する。	◆平成25年7月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から，自然災害の防止には，公助だけでなく，自助や共助も重要であることを考えさせる。 ◆万が一を考えて備える事の必要性を考えさせる。	☆〔関・意・態〕 自然災害の防止の重要性に関心をもち，協力の大切さを考えようとしている。 ☆〔思・判・表〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え，自然災害が起こりやすい我が国においては，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。
	④自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助） 1時間	○これまでの学習をもとに自然災害から自分の身を守るためにはどうすればよいのかを考える。 ○災害に備えて自分たちにできることについて話し合い，発表する。 ○家庭や地域でできる防災を考え，学んだ事を発信する。	◆災害に備えて自分たちにできることを自助として考え，提案させる。 ◆地域防災や防災意識の向上につながる取り組みを発信する。	

１０.各時間の内容

○「自然災害の多い日本」（第1時）

（1）本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害を防ぐ」（全 4 時間）の導入の時間として位置づける。
（2）指導のポイント	・導入で自然災害（津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風）の写真を見せる。 ・日本は自然災害が多い国であるかを予想させ，実際に多いことを資料を通して確認させる。 ・なぜ世界に比べて自然災害が多いのか，予想させノートにまとめる。 ・自然災害が多い理由の因果関係を全体で確認する。 ・日本は自然災害が多い国であるのに，死者数が少ないのはなぜか考えさせ学習問題を立てさせる。
（3）学習方法の工夫	・導入では，最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し，身近な問題として実感させる。 ・我が国の国土には自然災害が起こりやすいが，世界と比べて自然災害の死者数は少ないという点を気づかせ，学習問題につなげさせる。
（4）本時のねらい	・日本で起こっている様々な自然災害を知る。 ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。 ・自然災害に対する取組みが行なわれていることにつなげる。
（5）教科書・指導書該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会 5 下」P. 102～103 指導書：・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 指導編 P. 102～103 ・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編 P. 105

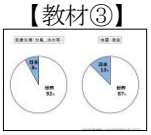
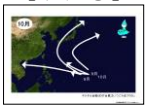
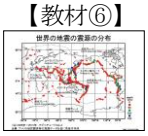
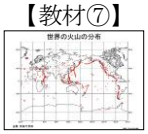
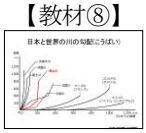
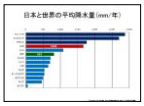
（6）学習に活用できるもの

教材名	使用方法	備考
①全国の自然災害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②世界全体に占める日本の国土面積の割合（世界地図）	板書	
③世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合（グラフ）	板書	
④日本の国土の地形（グラフ）	板書	
⑤日本列島に近づく台風	板書	
⑥世界の地震の震源の分布	板書	
⑦世界の火山の分布	板書	
⑧日本と世界の川の勾配	板書	
⑨日本と世界の平均降水量	板書	
⑩世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合（グラフ）	板書	

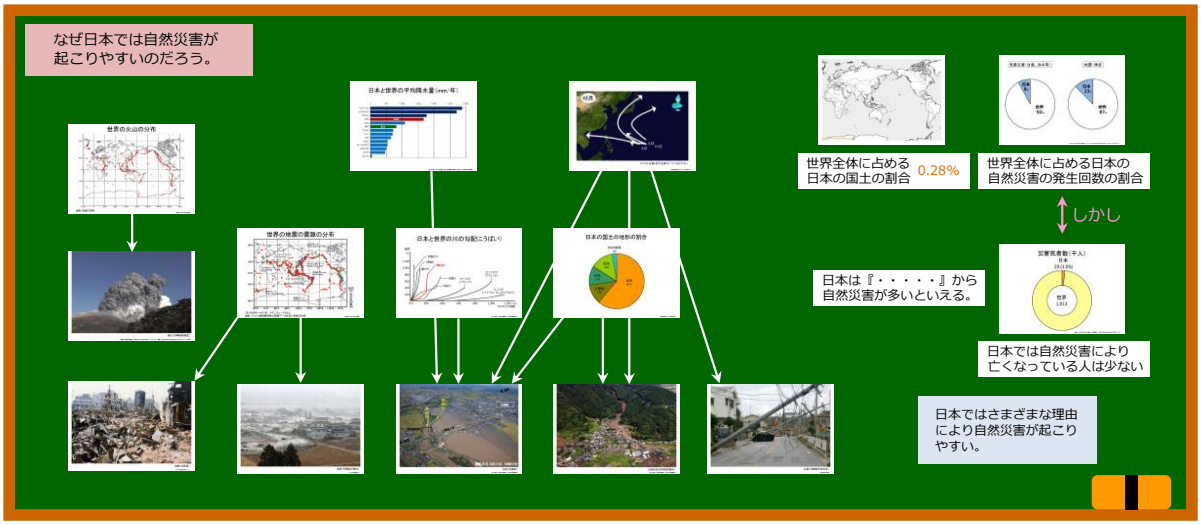
（7）参考資料

資料名	形式	備考
1 近年発生した自然災害の写真	ＰＰＴ	付属 DVD（教材データ集）に収録
2 マグニチュード６．０以上の地震回数	ＰＰＴ	
3 日本周辺のプレート	ＰＰＴ	
4 日本の水害・土砂災害の発生回数	ＰＰＴ	
国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」（台風はいつごろ近づくの）〈http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/〉	インターネットサイト	台風の経路
一般財団法人日本気象協会「日本地震マップ」－ 地震発生状況を地図とアニメーションで表示－〈http://www.quakemap.info/〉	インターネットサイト	地震発生状況

（8）学習の過程（資料活用例）

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10 分)	1　最近ニュースでの自然災害の話題はないか考える。 2　全国の自然災害の発生状況の写真を見て,「自然災害」にはどういうものがあるかを考える。	●日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。	【教材①】 地震（兵庫県） 津波 （宮城県石巻市） 洪水（栃木県） 土砂崩れ （熊本県阿蘇市） 火山の噴火 （宮崎県新燃岳） 台風 （沖縄県宮古島市）
展開 (30 分)	3　なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを世界と比較する資料で考える。 4　グループで日本に自然災害が多い理由を予想し，ノートにまとめ発表する。 ○海に囲まれている ○山が多い ○雨が多い ○荒れた森林が多い ○台風の通り道 ○川が急流 ○山が多いから ○火山が多い 5　発表した予想について，資料で確認する。 6　日本で自然災害が多い理由をまとめる。	●日本で様々な自然災害が発生する理由を気づかせる。 ●様々な自然災害と児童が考えていた理由を矢印で関連付けて,板書を構造化していく。	【教材②】 世界地図 【教材③】  世界全体に占める日本の自然災害の割合 【教材④】 日本の国土の地形 【教材⑤】  日本列島に近づく台風 【教材⑥】  世界の地震の震源の分布 【教材⑦】  世界の火山の分布 【教材⑧】  日本と世界の川の勾配 【教材⑨】  日本と世界の平均降水量
まとめ (5 分)	○日本では様々な理由により自然災害が起こりやすい。 ○日本は自然災害が多い国であるのにもかかわらず，なぜ亡くなった人の数が少ないのだろう。 7　「誰がどんな備えをしているのだろう」という学習問題を立てる。	●日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。	【教材⑩】 世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合（グラフ）

（9）板書計画（資料活用例）



（10）評価のポイント

〇観察・資料活用の技能

自然災害について資料などから読み取ってまとめている。

〇社会的な思考・判断・表現

自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え，表現している。

○「自然災害を防ぐために（公助）」（第2時）

（1）本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害を防ぐ」（全 4 時間）の展開の時間として位置づける。
（2）指導のポイント	・山形県内で実施されている水害対策について資料をもとに考えさせる。 ・水害対策の資料をもとに児童と教師が分類しながら，その目的や役割を理解する。また，それらの活動を通して，国，都道府県，市町村が行っている「避難場所や危険箇所を事前に知らせる」,「防災情報を早く正確に伝える」,「災害を防ぐための工事を行う」などの「公助」を捉えさせる。
（3）学習方法の工夫	・市町村や山形県内の災害を防ぐ取り組みについての副読本「わたしたちの最上川」を参考に，身近な問題として取り上げ，授業を展開する。 ・様々な対策や事業を分類し，その活動を通して，国，都道府県，市町村が行っている「公助」を捉えさせる。
（4）本時のねらい	・国や地方公共団体により実施されている様々な「公助」を理解する。 ・堤防整備などの対策により，災害の被害を減らすことができることを知る。 ・緊急地震速報などを伝える「公助」を理解し，国民が生活に活かしていることを知る。
（5）教科書・指導書該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会 5 下」P. 104～105 指導書：・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 指導編 P. 104～105 ・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編 P. 106

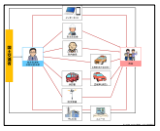
（6）学習に活用できるもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②岩手県普代村の被害状況の写真	板書	
③羽越水害の映像資料	ＶＴＲ	
④羽越水害浸水エリア図	板書	
⑤副読本「わたしたちの最上川」	調べ学習	
⑥岩手県普代村の津波対策の写真	板書	
⑦情報伝達ルートのパズル	板書	

（7）参考資料

資料名	形式	備考
1 洪水の対策　堤防	ＰＰＴ	付属 DVD（教材データ集）に収録
2 洪水の対策　ダム		
3 洪水の対策　遊水地（通常時）		
4 洪水の対策　遊水地（洪水時）		
日本経済新聞電子版「岩手県普代村は浸水被害ゼロ，水門が効果を発揮（2011/4/17:00）」<http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31023_R30C11A3000000/>	インターネットサイト	岩手県普代村の新聞記事

（8）学習の過程（資料活用例）

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10 分)	1　前時のふりかえり 2　東日本大震災の「岩手県普代村」の被害状況の写真を見て，なぜ死者が出なかったのかを考える。 めあて：自然災害を防ぐために，どんな取り組みがおこなわれているのだろうか。	●日本では自然災害が多いのに死者が少ない理由を，東日本大震災で死者がでなかった「岩手県普代村」を例に考えさせる。	【教材①】 東日本大震災の津波の被害の写真 【教材②】 普代村の被害の写真
展開 (30 分)	3　戦後最大規模の水害となった昭和４２年の羽越水害を学ぶ。 4　副読本「わたしたちの最上川」を利用し，山形県内で行っている水害を防ぐ取組を調べる。 5　調べた結果を発表し，取組の機能や仕組みを確認する。 6　災害が起こりそうなときに，私たちに届く情報はどのように伝えられているのかを考える。	●国土交通省や山形県，市町村が行っていることを捉えさせる。 ●普代村でも同じように災害の被害を防ぐための取り組みを行っていたことを捉えさせる。 ●国土交通省が雨や川の水位を観測し，災害が起こりそうなときは，市町村が避難情報を出していることを捉えさせる。	【教材③】 羽越水害映像 【教材④】 羽越水害浸水エリア図 【教材⑤】 副読本「わたしたちの最上川」 【教材⑥】 普代村の津波対策の写真 【教材⑦】  情報伝達ルートのパズル
まとめ (5 分)	○国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「知らせる」，「伝える」，「防ぐ」取り組みをしています。これを「公助」と言います。 ○国土交通省や山形県，市町村が行っている「公助」により，私たちは自然災害から守られていますが，それだけでよいのでしょうか。 発展：国や町の取り組みを振り返り，その目的や重要性を確認する。 「国や町の取り組みで，特に大事だと思うことはどれですか。また，それはなぜですか。」	●国・都道府県・市町村が行っている「公助」を生かしながら，自分の身を守るために必要な備えについて考えさせる。	

（9）板書計画（資料活用例）

（10）評価のポイント

〇社会的事象についての知識・理解

国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること，自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。

○「地域のみんなで災害を防ぐ（自助・共助）」（第3時）

（1）本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害を防ぐ」（全 4 時間）の展開の時間として位置づける。
（2）指導のポイント	・「平成 25 年 7 月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校こどもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について，気づいたことや考えたことをもとに話し合う。 ・自然災害の被害を防止するには，住民相互の協力や日頃からの防災意識が大切であること，日ごろの備えや防災訓練の大切さを知る。
（3）学習方法の工夫	・「平成 25 年 7 月豪雨時の救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校こどもたちの行動」の事例から，命を守るために何が必要であるかを考えさせ，授業を展開する。
（4）本時のねらい	・平成 25 年 7 月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から，自然災害の防止には，公助だけでなく，自助や共助も重要であることを考えさせる。
（5）教科書・指導書該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会 5 下」P. 106～107 指導書：・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 指導編 P. 106～107 ・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編 P. 107

（6）学習に活用できるもの

教材名	使用方法	備考
①平成 25 年水害写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②東日本大震災の津波被害の写真	板書	
③山形県の断層帯マップ図	板書	
④洪水ハザードマップ	板書	
⑤山形市水防訓練の写真	板書	
⑥NHK「シンサイミライ学校」（片田敏孝先生のいのちを守る特別授業 第 1 回「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」）※約 3 分間の VTR	視聴	インターネットサイト<http://www.nhk.or.jp/sonae/miraai/program_sp01/watch03.html>

（7）参考資料

資料名	形式	備考
平成 25 年 7 月の豪雨の際の新聞記事	ＰＰＴ	付属 DVD（教材データ集）に収録
片田 敏孝（2012）「命を守る教育」PHP 研究所	書籍	岩手県釜石市の小・中学生を救った防災教育についての書籍

（8）学習の過程（資料活用例）

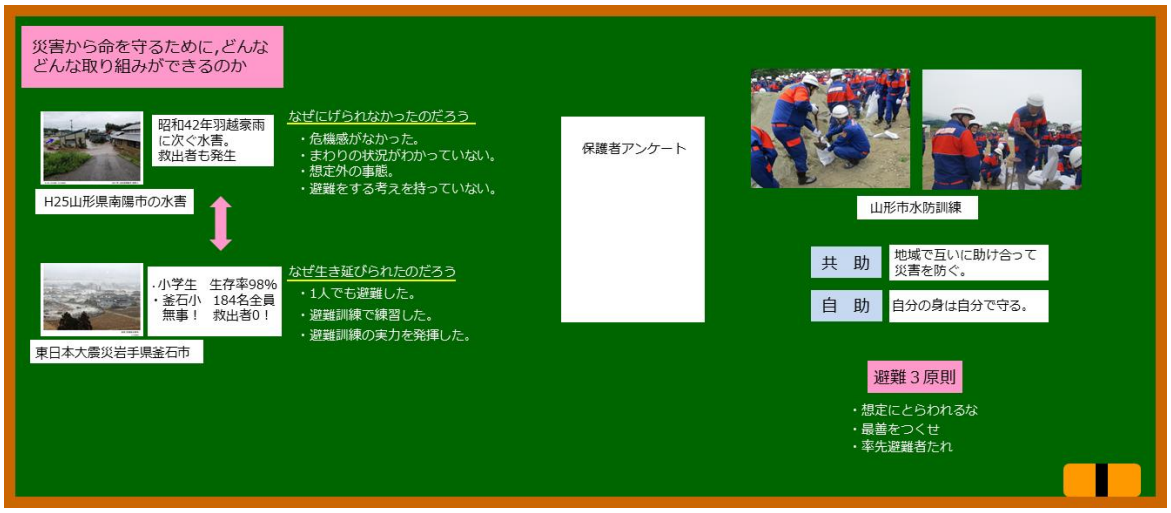
流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10 分)	1　前時のふりかえり（羽越水害映像視聴） 2　最上川やその支川が増水して溢れそうな状況で，家族と連絡がとれない状況を想像し，自分だったらどうするかを考える。 ○近所の人に相談する ○避難しようと誘う ○家で待っておく ○一人で逃げる 3　東日本大震災の時，釜石小学校 184 名は全員が無事で，救出者も 0 名だったのはなぜなのかを考える。 めあて：災害から命を守るために，どんな取り組みができるのでしょうか。	●災害が毎年起きている事は知っているが，備えはできていないことに気づかせる。 ●しっかり備えることが身を守る事に着目させる。 ※上記を進めるため，事前に保護者アンケートを実施し，実情を把握しておくことが望ましい。	【映像視聴】 羽越水害映像 【教材①】 平成 25 年 南陽市の浸水被害 【教材②】 東日本大震災の 津波の被害の写真
展開 (30 分)	4　地震や洪水が起きたとき，逃げ遅れる人とそうでない人がいます。 どんな違いがあると思いますか。 ○まわりの状況がわかっていない。 ○危機感がなかった。 ○想定外の事態。 ○避難をする考えを持っていない。 どんな準備がなぜ必要なのだろうか。 5　逃げ遅れなかった人は何をしたでしょう。 ○早めに避難した。 ○避難訓練で練習した。 ○普段から準備していた。	●自分で考えること，あきらめないで行動することなどを考えさせる。 ●保護者アンケートから準備している物等を考えさせる。 ●自分たちのできることを事前に考え，避難訓練をすることにより，自分の命を守ることができることに気づかせる。	(防災に関する保護者の実態) 【教材③】山形県の断層帯マップ図 【教材④】洪水ハザードマップ 保護者アンケートの結果より実態を確認する。 ①災害への理解は？ ②災害への準備は？ ③災害への危機感は？ ④避難場所の理解は？ ⑤防災訓練への意識は？
まとめ (5 分)	○このように，地域や学校で防災訓練などを行い，共に助け合うことを「共助」といい，自分の身を自分で守ることを「自助」といいます。 ○防災学習や防災訓練で学んだことを実践すると，自分の命を守ることができる。 ○各市町村でもこれまでの水害の教訓を生かし，水防訓練など，災害から身を守るための取り組みが行われている。 発展：地域の取り組みを振り返り，なぜ地域の取り組みが重要なのか発表する。 「防災訓練に参加する場合，どんなことを大事にして参加すればよいと思いますか。」	●「避難 3 原則」を理解させる。 ・想定にとらわれるな ・最善を尽くせ ・率先避難者たれ	【教材⑦】 水防訓練の写真

【保護者のアンケート例】

①毎年災害（地震や水害）が起きていることを知っている（関心がある）か。
②水害への備えをしているか。
③準備している物（例：水・食料・ラジオ・乾電池・懐中電灯・防災セット（４～5 名）等）
④●●地区で災害は起こると思いますか。
⑤地震で家が壊れたらどこに逃げるか知っているか。
⑥水害で家が壊れたらどこに逃げるか知っているか。

※本授業は，地域防災力向上に結びつける観点から，公開授業として取り組むことが望ましい。

（9）板書計画（資料活用例）



（10）評価のポイント

〇社会的事象への関心・意欲・態度

自然災害の防止の重要性に関心をもち，協力の大切さを考えようとしている。

〇社会的な思考・判断・表現

国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え，自然災害が起こりやすい我が国においては，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している

○「自然災害から身を守るためにわたしたちができること」（自助）（第４時）

（1）本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害を防ぐ」（全 4 時間）のまとめの時間として位置づける。
（2）指導のポイント	・治水対策を行っていても想定外の洪水が起こる可能性があることを気づかせる。 ・自分の住む町で起こりやすい水害や土砂災害などから身を守るために，防災に関する情報を知り，避難場所・避難経路を確認し，必要な持ち物を用意しておくことの大切さに気づかせる。
（3）学習方法の工夫	・ハザードマップで自宅近くや学校，通学路の危険な場所，地域の避難所を確認させる。 ・これまでの学習内容やワークシートの内容をもとに，グループで災害に備えてできることについて話し合わせ，発表させる。
（4）本時のねらい	・これまでの学習をふりかえり，災害に備えて自分たちにできることについて話し合うことで，自助の意識を高める。
（5）教科書・指導書該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会 5 下」P. 106～107 指導書：・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 指導編 P. 106～107 ・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編 P. 107

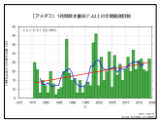
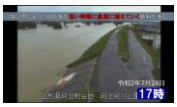
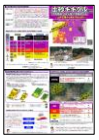
（6）学習に活用できるもの

教材名	使用方法	備考
①集中豪雨（1 時間降水量 80 ミリ以上）が増加しているようす（グラフ）	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②昭和 42 年羽越豪雨での洪水被害とその後の堤防整備の写真	板書	
③水位レベル表示（写真）	板書	
④地デジデータ放送	板書	
⑤監視カメラ（写真）	板書	
⑥山形河川国道事務所「山形の河川防災情報」<http://www2.thr.mlit.go.jp/yamagata/river_dp2014/>	ＩＣＴ 板書	インターネット
⑦ハザードマップ	配布	付属 DVD（教材データ集）に収録
⑧非常持出袋（イメージ画像）	配布	
⑨洪水警報の危険度分布の活用	ＰＤＦ	
⑩土砂災害 警戒判定メッシュ情報の活用	ＰＤＦ	

（7）参考資料

資料名	形式	備考
非常時持出品カード	ＰＰＴ	付属 DVD（教材データ集）に収録

（8）学習の過程（資料活用例）

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (5 分)	1　前時のふりかえり 2　国や県，各市町村では公助や共助により災害を防ぐためのさまざまな取り組みが行われているが，災害の危険性がなくなったわけではないことを伝える。 ○昭和 42 年の洪水後，山形県内ではさまざまな治水対策を行っているが，集中豪雨は年々増加しており，災害の危険性が高まっている。 ○日本全国では，毎年のように大雨による大水害が起きている。 めあて：災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。	●治水対策を行っていてもそれを超える大きな洪水が起こる可能性があることを気づかせる。	【教材①】  集中豪雨（1 時間降水量 80 ミリ以上）が増加傾向であることを示しているグラフ 【教材②】 昭和 42 年羽越豪雨 整備された堤防
展開 (35 分)	3　グループでダムや堤防などで防ぎ切れない洪水から命を守るために私たちにできることはなにか話し合う。 ○どのように防災情報を活用すればよいのだろうか。 4　グループで洪水ハザードマップをもとに災害時に自分はどこへ避難すればいいかを確認しあう。 5　グループで避難する時にどのようなものを持ち出せばいいかを考える。 6　グループで災害に備えてできることについて話し合い，「災害に備えて私たちにできること」と題したリストを模造紙などに作成し，発表する。 発展：非常時持出品カード（参考資料）を使い，避難時に持ち出す必要があるものとその理由を考える。 非常持出品カード	●活用できる防災情報を知り，避難に備えることの大切さに気づかせる。 ●近年は強い雨により、川の水が短い間に増えていく傾向があることを気づかせる。 ●急な川の増水に備えて、早めの避難が必要であること、増水時に川に近づくと危険であることを気づかせる。 ●自宅，学校の下校時，よく遊んでいる公園等，様々な場所にいることを想定させ，その際の避難場所を確認させる。 ●避難の時にすぐに持ち出せるように，普段から備えておく必要があることを気づかせる。 ●これまでの学習をふりかえらせ，防災・減災に必要なことを考えさせる。 ●避難情報等の発表や，危険を感じた時は，速やかに避難することを指導する。	【教材③】 水位レベル表示 【教材④】 地デジデータ放送 【教材⑤】 監視カメラ 【教材⑥】 「山形の河川防災情報」 【教材⑦】  最上川の水位上昇映像 【教材⑧】 ハザードマップ 【教材⑨】 非常持出袋 【教材⑩】 危険度分布の活用リーフレット 【教材⑪】  土砂災害警戒判定メッシュ情報の活用リーフレット
まとめ (5 分)	○自然災害の危険を回避するために，日ごろから備えておくことが大切です。		

（9）板書計画（資料活用例）

（10）評価のポイント

〇社会的事象への関心・意欲・態度

自然災害の防止の重要性に関心をもち，協力の大切さを考えようとしている。

〇社会的な思考・判断・表現

国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え，自然災害が起こりやすい我が国においては，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

＜出典一覧＞

○第１時

全国の自然災害の写真	○地震（兵庫県）	（財）消防科学総合センター「災害写真データベース」<http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do>
	○津波（宮城県石巻市）	（社）東北建設協会提供
	○噴火（宮崎県新燃岳）	宮崎県・鹿児島県　霧島山（新燃岳）噴火に関する政府支援チーム(2011)「霧島山（新燃岳）噴火時に噴石等から身を守るために」
	○台風（沖縄県宮古島市）	宮古島地方気象台提供
世界全体に占める日本の国土面積の割合（世界地図）		樹商事株式会社「世界地図」< http://sekaichizu.jp/ >
世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合（グラフ）		内閣府「平成 29 年版防災白書」（付属資料 25）<http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h29/honbun/3b_6s_25_00.html>
日本の国土の地形（グラフ）		総務省統計局「日本統計年鑑」<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm >
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」<http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/>
世界の地震の震源の分布		内閣府「平成 28 年版防災白書」<http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h28/index.html>
世界の火山の分布		
日本と世界の平均降水量（グラフ）		平成 28 年度　国土交通白書　国土交通白書参考資料編　資料 6-7<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h28/hakusho/h29/data/html/ns006070.html>
世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の割合（グラフ）		内閣府「平成 26 年版防災白書」（付属資料 1）<http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/3b_6s_01_00.html>

○第２時

東日本大震災の津波被害の写真（宮城県石巻市）	（社）東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真（岩手県普代村）	普代村地域振興室提供

○第３時

東日本大震災の津波被害の写真（宮城県石巻市）	（社）東北建設協会提供
片田敏孝先生のいのちを守る特別授業　第 1 回 VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」	NHK「シンサイミライ学校」<http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/>
山形県断層帯マップ図	山形県<https://www.pref.yamagata.jp/kurashi/kendo/jishin/7180025seismicmap.html>

○第４時

集中豪雨（1 時間降水量 80 ミリ以上）が増加しているようす（グラフ）	気象庁「全国アメダスにおける 1 時間降水量 80mm 以上の年間発生回数」<https://www.jma-net.go.jp/gifu/shosai/know/kikouhenka/jp_prep.html>
自然災害に備えて私たちにできること ○気象警報の種類	気象庁「気象警報・注意報の種類」<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/warning_kind.html >
洪水警報の危険度分布の活用 ～中小河川の洪水災害から命を守るために	気象庁「洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）の活用　～中小河川の洪水災害から命を守るために～」<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/riskmap_flood/index.html >
土砂災害警戒判定メッシュ情報の活用 ～土砂災害から命を守るために～	気象庁「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）の活用　～土砂災害から命を守るために～」<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/doshamesh/index.html >

＜参考文献＞

・文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説　社会編」

・国立教育政策研究所，教育課程研究センター（2011）「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校　社会）」

お問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　山形河川国道事務所　調査第一課
〒990-9580　山形県山形市成沢西四丁目3-55
TEL:023-688-8421（代）FAX:023-688-8393（代）

Copyright (C) Yamagata office of River and National Highway, All Rights Reserved.